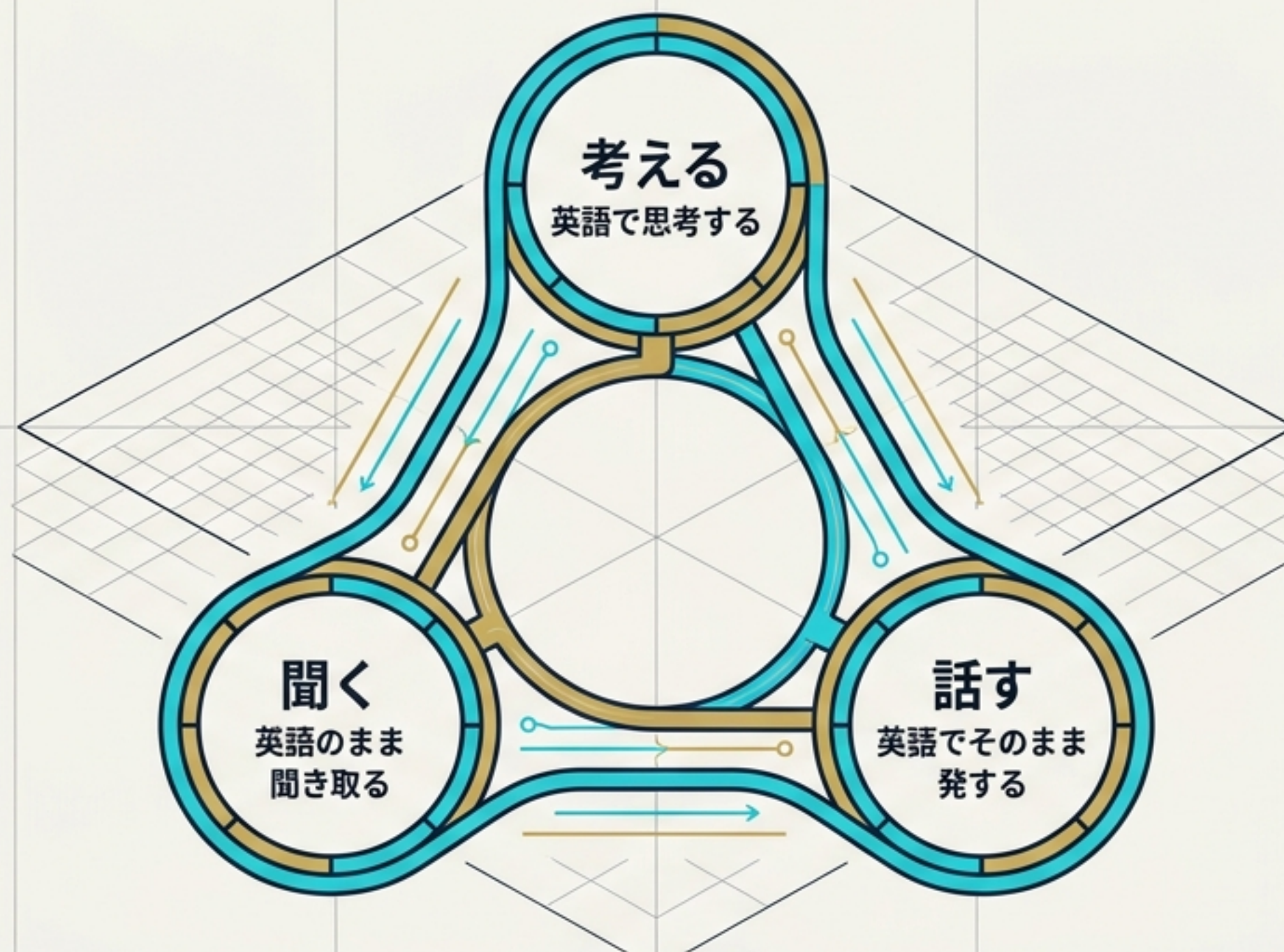


最終目的地：「英語脳」とは何か？

日本語を一切介在させず、ネイティブと同じ処理回路で英語を扱う状態。



翻訳プロセスが消滅することで、圧倒的な処理スピードと流暢さが生まれる。

発音に対する「致命的な誤解」

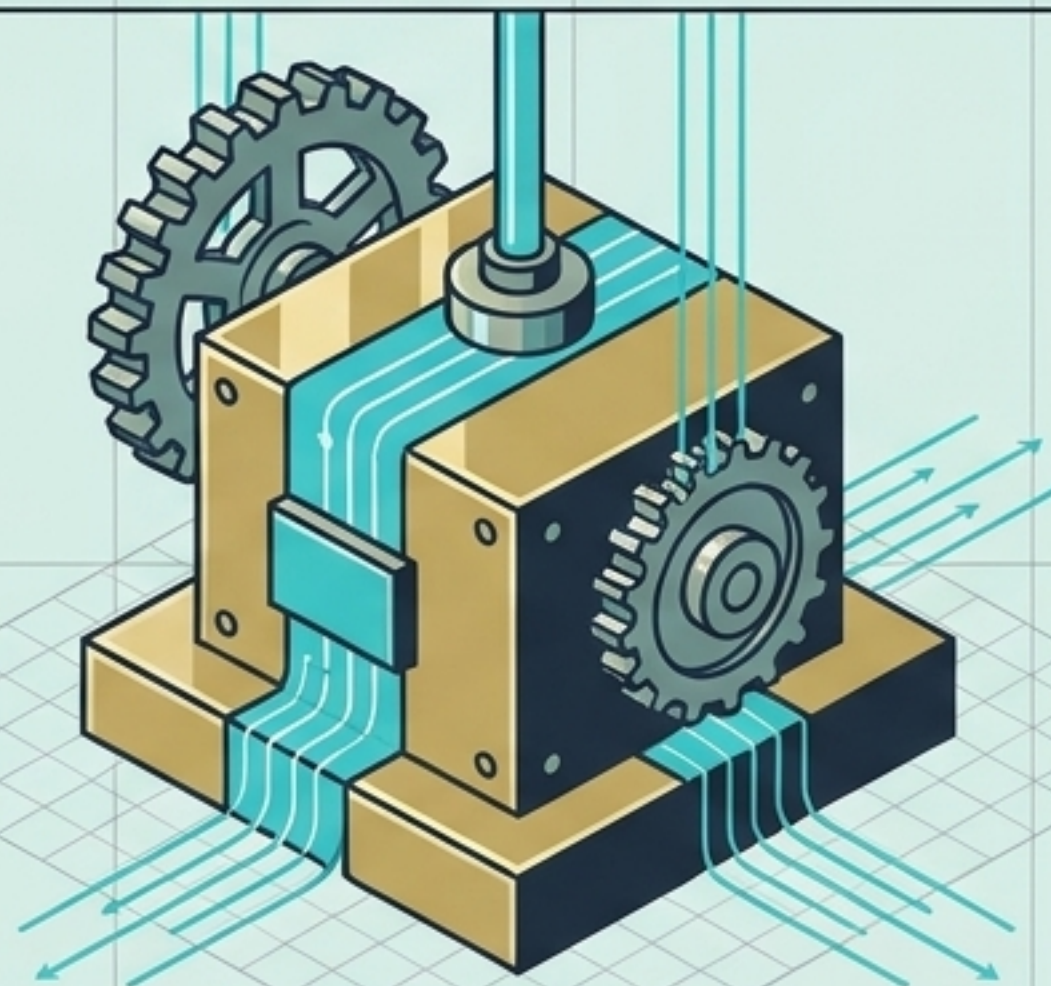
✖ 装飾としての発音



「BBCやCNNのキャスターのような完璧なネイティブアクセントを手に入れること」

結果：絶対的な美しさを求めすぎて挫折。

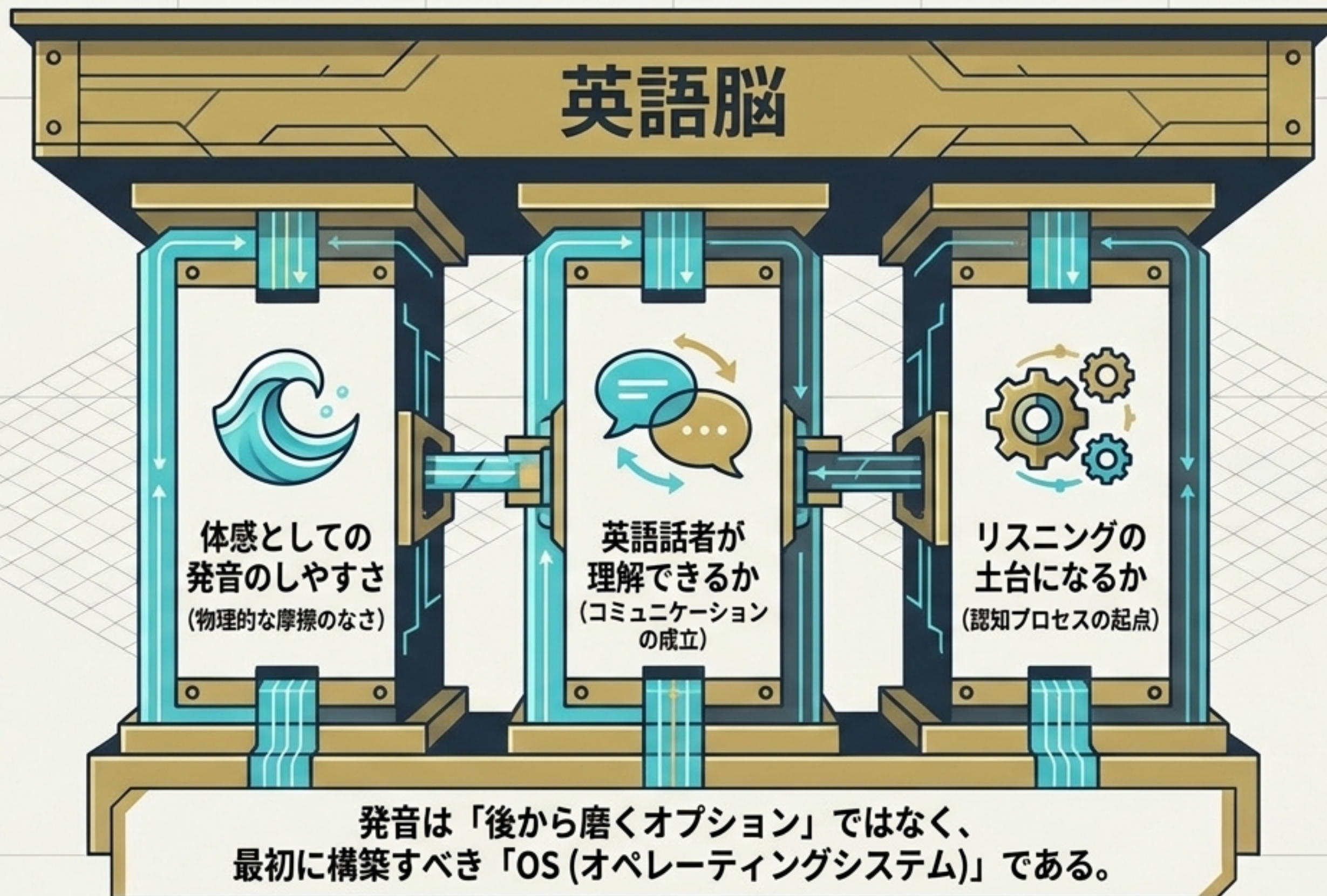
✔ 機能としての発音



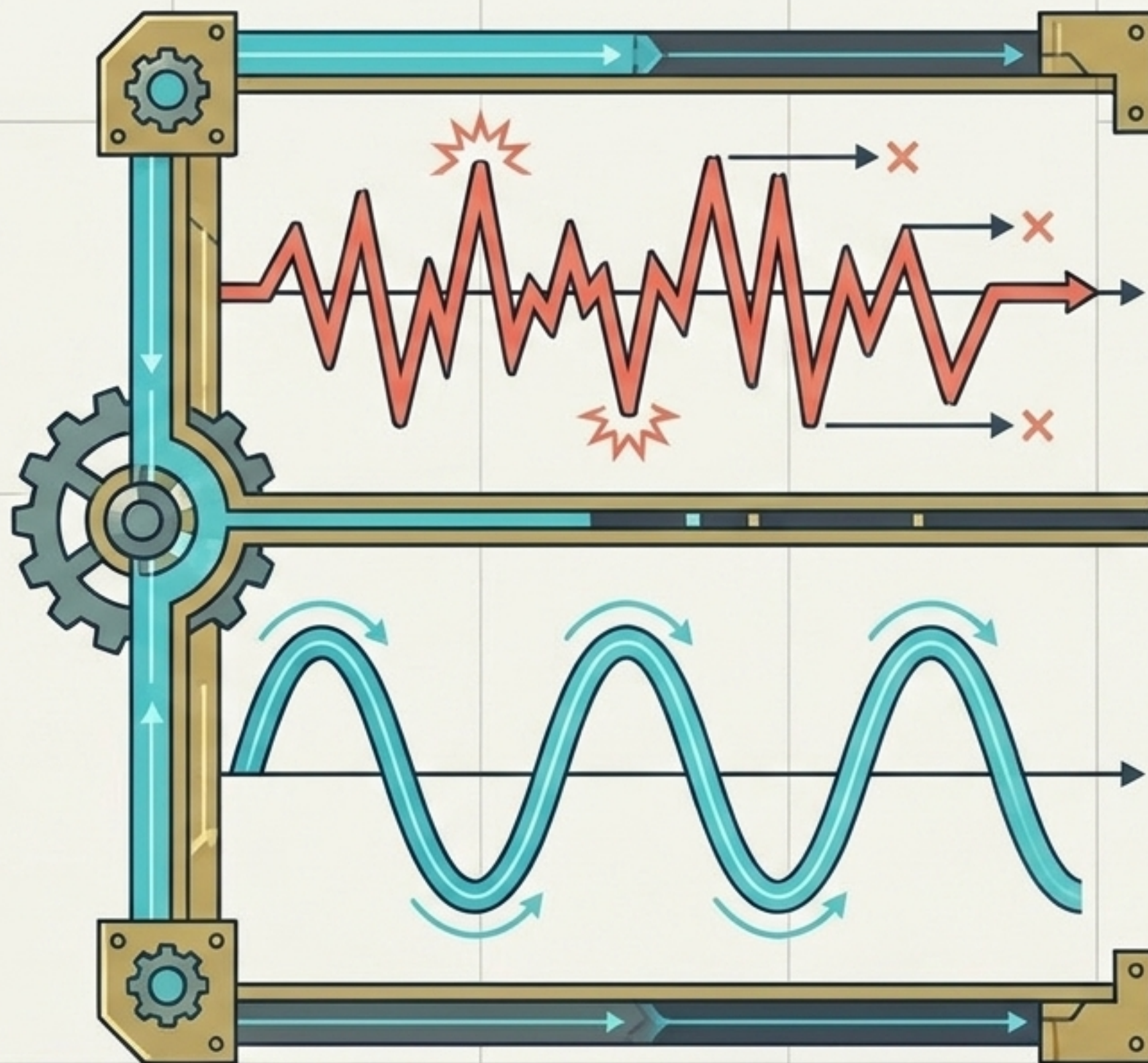
「相手と正確に意思疎通するための物理的・認知的な絶対条件」

事実：世界中の英語話者は独特の訛りを持つが、問題なく理解し合っている。

パラダイムシフト：発音の良さ「3つの新定義」



定義1：体感としての発音のしやすさ（物理的フロー）



問題

日本語の発声方法のまま英語を話すと、物理的な「摩擦」が起きる。

シャドーイングで嚙んだり、つかえたりしてモチベーションが低下する。

解決策：喉発声（Throat Vocalization）の習得

リラックスした腹式呼吸と喉の空間を使うことで、波のように流れる発音が可能に。

無理なく声が出るため、学習（シャドーイング等）の苦痛が消え、モチベーションが維持される。

定義2：英語使用者が理解できるか（カラオケのメタファー）



Insight

カラオケで90点を取る人（機械的なネイティブ発音）が、必ずしも人を感動させるわけではない。

The Rule

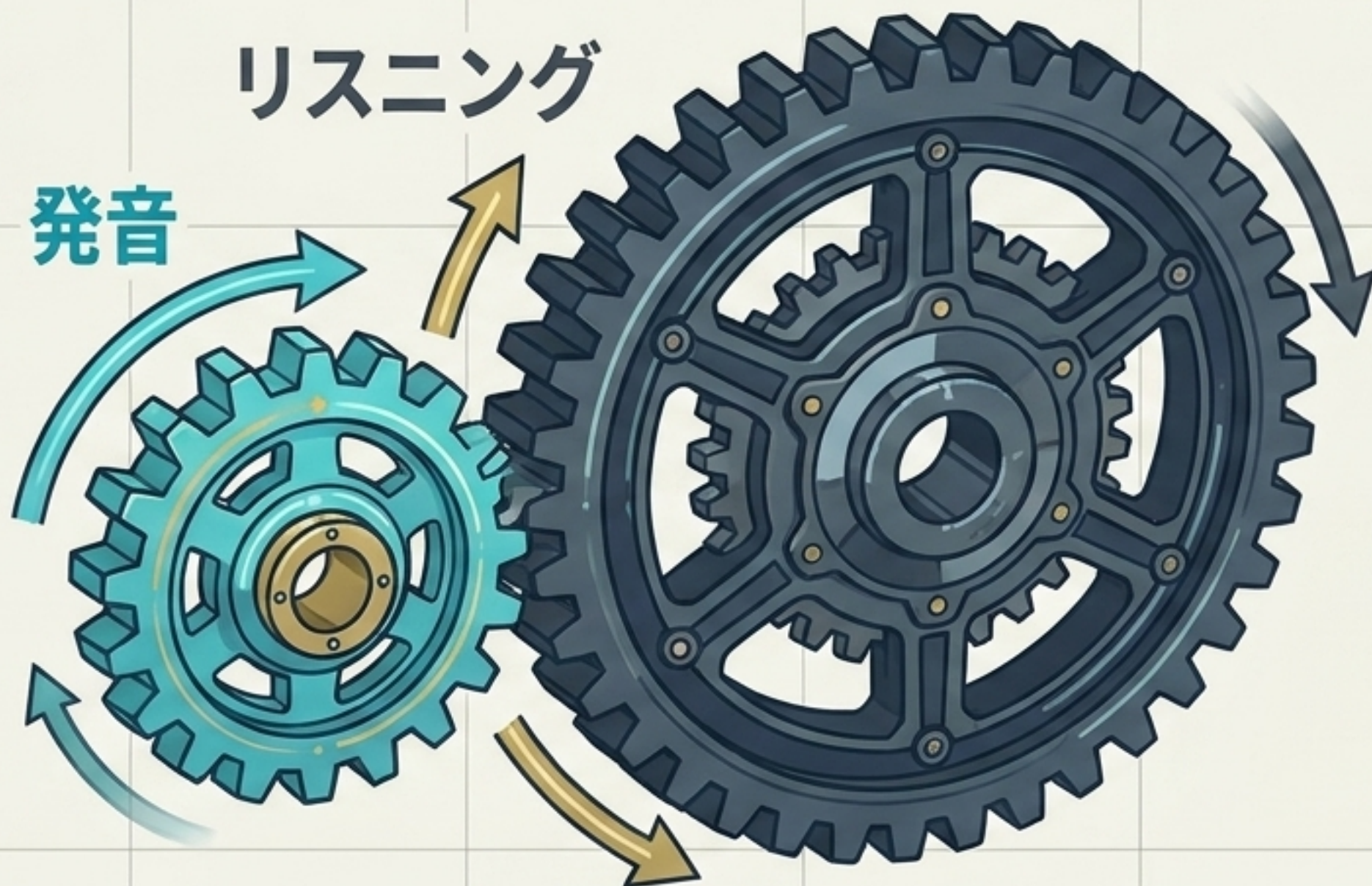
完璧な美しさは不要。しかし、カタカナ英語は相手の理解を著しく阻害するためNG。

Goal

完璧主義を捨て、「英語話者の耳に負担をかけない」理解可能な発音チューニングを目指す。

定義3：リスニングの絶対的な土台

「スピーキングはリスニングに先行しない」。しかし、そのリスニング能力自体が「発音能力」に依存している。

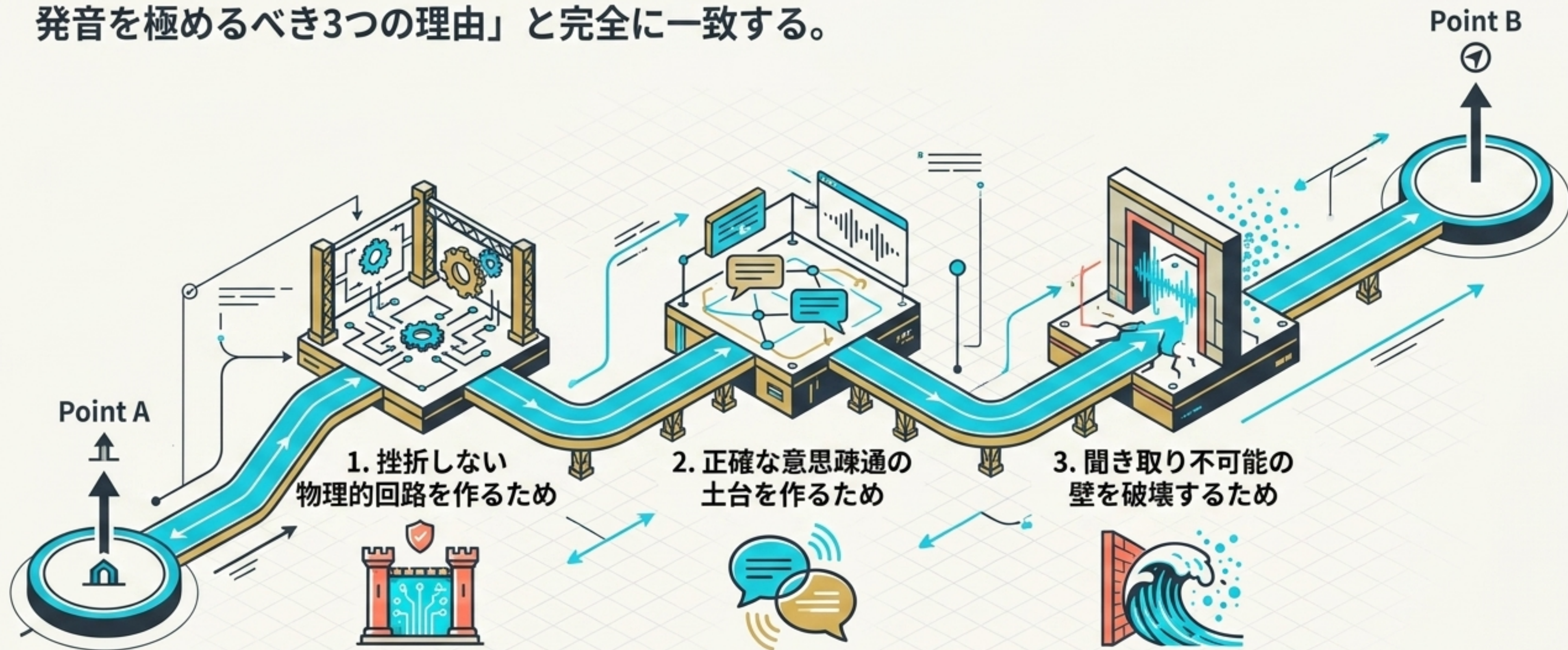


メカニズム

- ✓ 自分が物理的に発音できない音、論理的に口の動きを説明できない音は、脳が「雑音」として処理する。
- ✓ 発音を理解して初めて、英語の音が「意味のあるデータ」として脳に認識される。

なぜ「発音から」始めるべきなのか？

発音の良さを決める3つの定義は、そのまま「学習の初期段階で発音を極めるべき3つの理由」と完全に一致する。

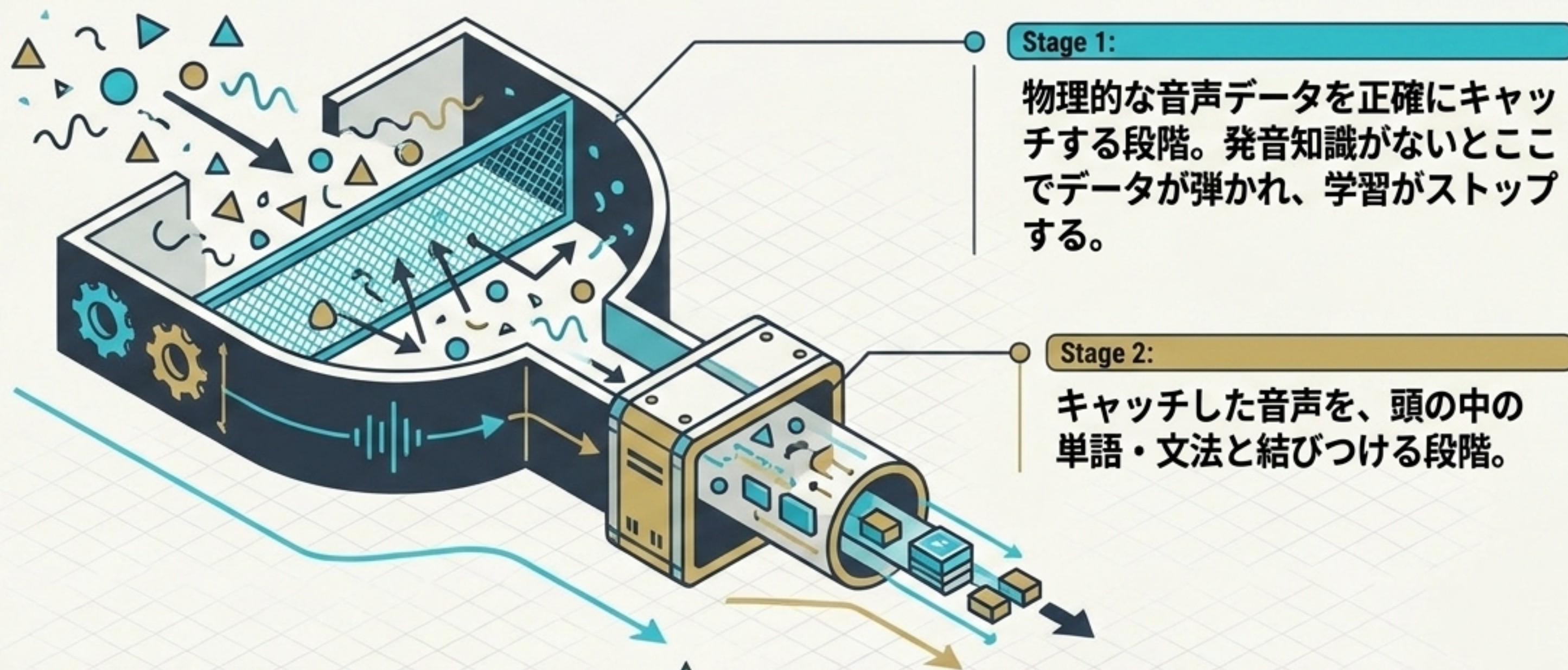


大人と赤ちゃんの言語獲得マトリクス

	赤ちゃん	大人
音声模倣能力	無意識に未知の音を純粹にコピーできる。	聴覚が母語に最適化されており、未知の音をそのまま真似る能力を喪失。
アプローチ	とにかく聞いて真似る（感覚的）。	発音記号（IPA）による論理的 理解が必要。

大人は感覚でシャドーイングをしてはいけない。
舌の位置、口の動かし方を「他人に説明できるレベル」で
頭で論理的に理解する必要がある。

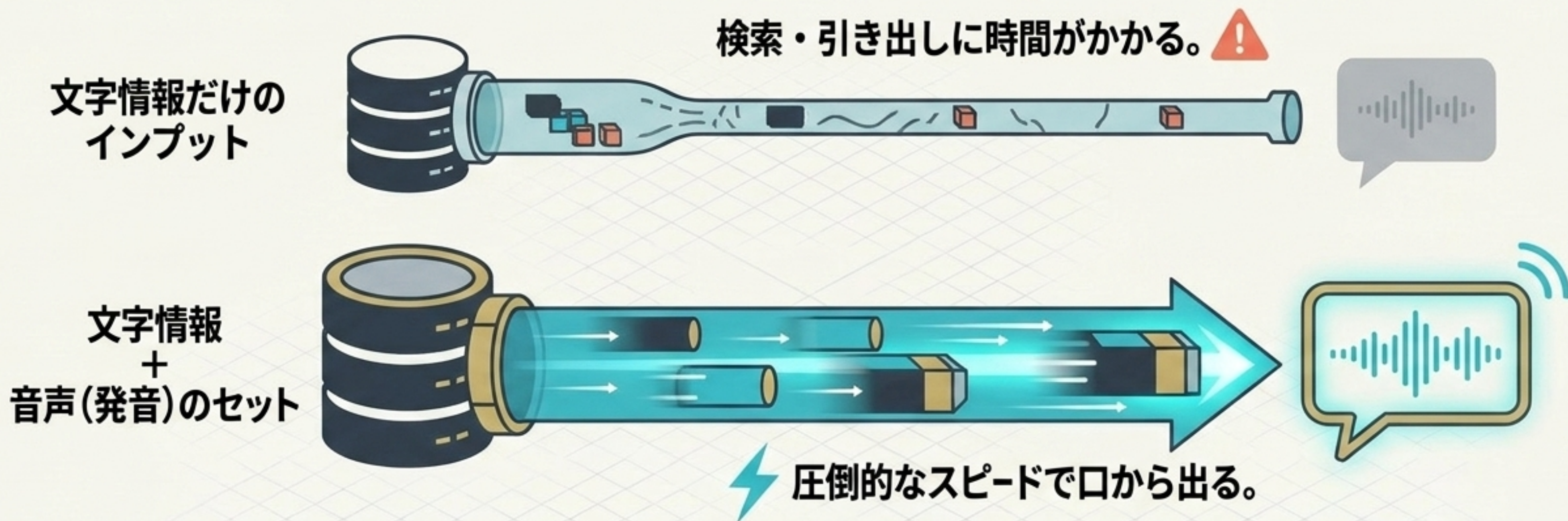
リスニングの科学：2段階フィルター構造



音理解と意味理解を同時に高めることが科学的にも証明された最短ルート。

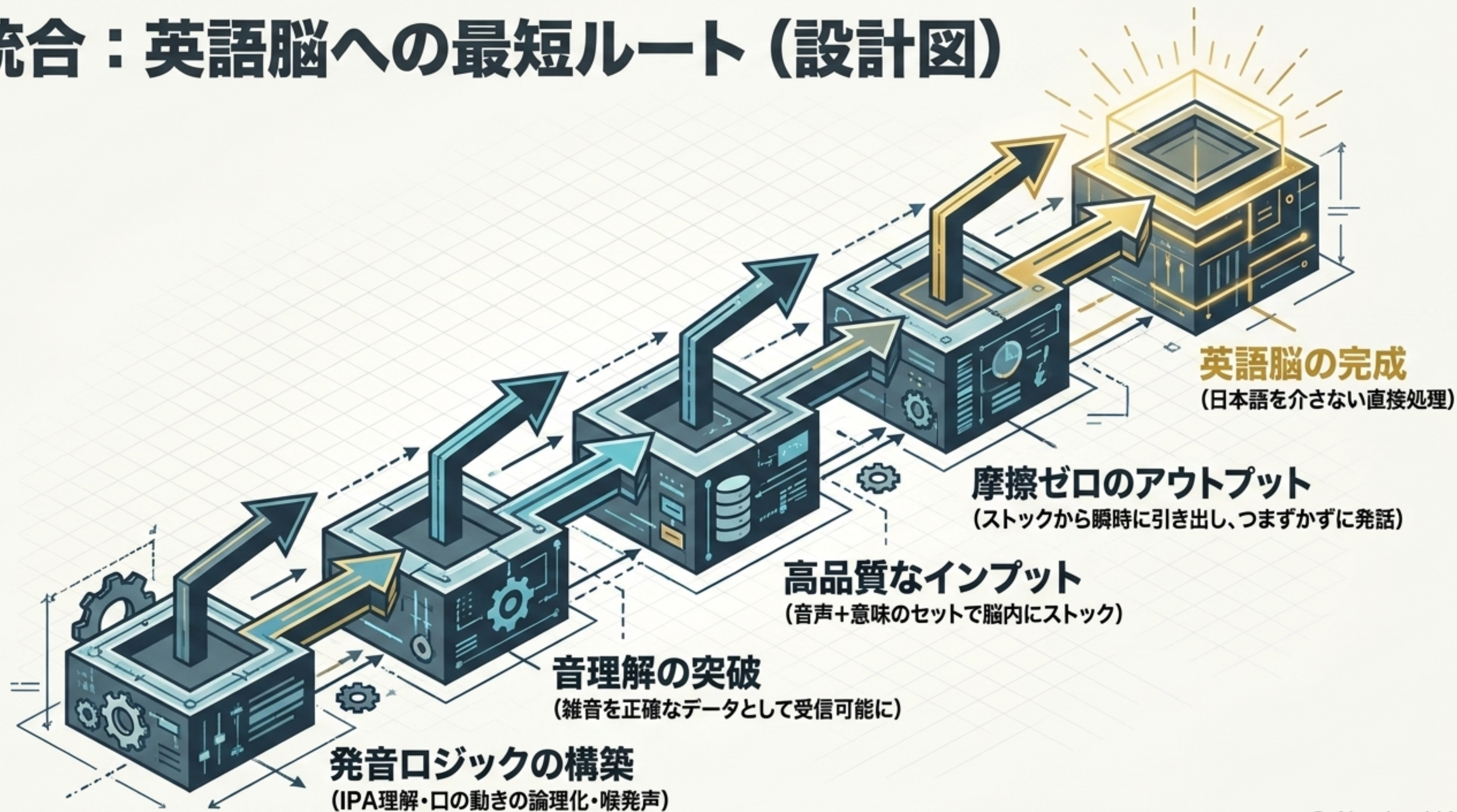
スピーキングを加速させる「音声ストック」

スピーキングとは、頭の中にある情報ストックをアウトプットする作業。



発音のロジックを知った上でリスニングを行い、音声をストックすることが、そのままスピーキング力に直結する。

統合：英語脳への最短ルート（設計図）



結論：発音は英語脳のOSである

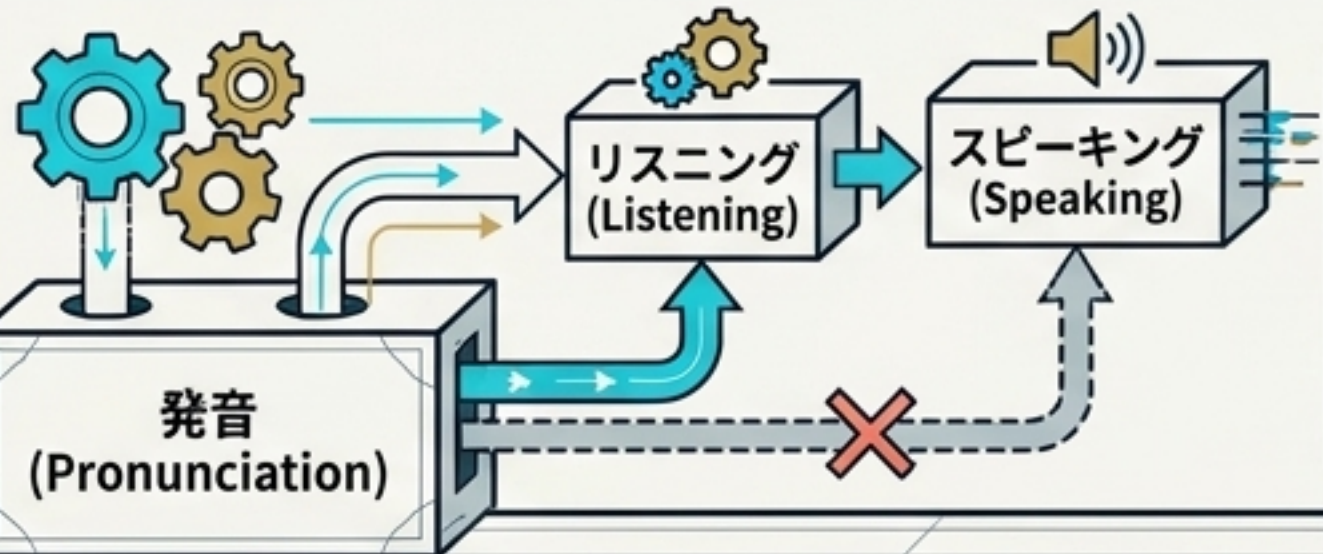
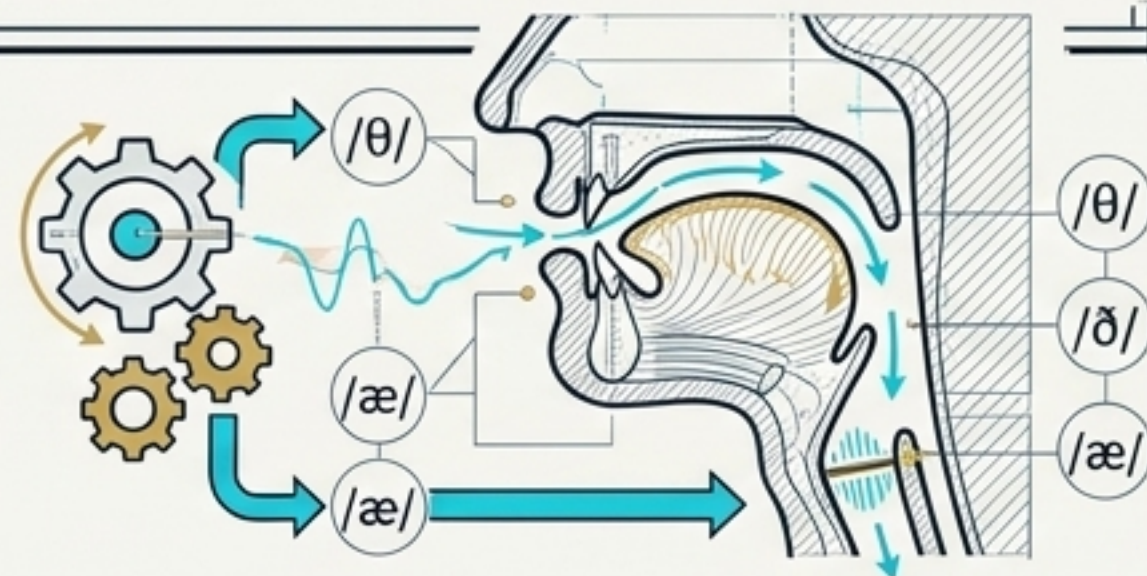


1. ネイティブの完全模倣を捨てる

発音は装飾ではなく、相互理解のための機能。
カタカナ英語を脱却し、伝わる音のチューニングに集中する。

2. 大人は「論理」で音を設計する

赤ちゃんの真似は不可能。発音記号（IPA）と喉発声を使い、
舌や口の動きを頭で理解・説明できる状態を作る。



3. 発音から始めることが唯一の最短ルート

発音できない音は聞こえない。発音がリスニングの土台
を作り、それが高速なスピーキングを引き出す。

感覚での学習を終わらせ、今日から「音の建築」を始めよう。